



漁協通信

第16号

H25. 9. 13 発行



(携帯サイト)

大井川(非)漁業協同組合

島田市中溝4丁目2-5

TEL (0547) 37-3048

テレホンサービス(釣り情報)

(0547) 32-9240

大型鮎、川面に踊る

「全長27cm!」計量係の声も思わず大きくなり、僅差の大物が出るたびに歓声が挙がりました。

8月下旬に本流で41名が釣果を競った一般友釣り大会(P.2)で見られた今年の好漁の1コマです。

初夏の解禁から早くも4カ月、不漁の長く続いた水辺に活気と釣り人の笑顔が戻ってきました。季節は秋を迎えましたが、大型鮎の好漁は勢いを駆って晩秋まで釣果が期待できそうです。



↑新東名橋上下流で開催した一般大会



一般大会で釣りあげた26~27cmの良型鮎

今年は歴代の最高気温を更新する異常なほどの酷暑でしたが、早い梅雨明けのなか大井川周辺は大きな災害もなく、川相の良い好ポイントが多く見られました。8月初旬には平均釣果が2桁を数え始め、サイズは県内トップクラス、尺鮎も間近です。

かつてないビッグサイズの手ごたえに、仕掛けを取られたり竿を折ったり、なかには「魚焼きグリルに入らなくて怒られた」などのハプニングも続出しています。



大井川漁協、段突の団体優勝

県あゆ友釣り競技選手権大会

第60回を記念し23漁協が参加。興津川での熾烈な戦いを制した大井川漁協が、2位に300g近く大差をつけて栄冠を勝ち取り、大会通算12回目の輝かしい実績を収めました。

更に大会初出場の齋藤喜芳氏が1位と2gの僅差で個人準優勝と大健闘、来年に期待したいと思います。また酒井一氏も5位を占め、加えて大物賞(69g)も獲得し、底力を見せてくれました。上位は次のとおりです。

<団体の部>

優勝：大井川(1,269g、34尾) 2位：阿多古川(972g、25尾) 3位：原野谷川(895g、25尾)

<個人の部>

優勝：土屋仁(狩野川、373g、11尾) 2位：齋藤喜芳(大井川、371g、12尾) 3位：袴田雪仁(原野谷川、359g、10尾) 4位：山内昭明(東伊豆、331g) 5位：酒井一(大井川、327g)

初陣を飾る



自信はありませんでしたが、良い体験をさせていただき、これからの糧になりました。皆様に感謝しています。(齋藤)

島田地区優勝

第48回地区対抗友釣競技大会

7月20日(土)、“大井川本流で釣果を競いたい”今年はその夢が叶いました。

会場は丹原～鍋島地先の本流右岸。水温・水量ともに好条件に恵まれ、6地区代表30人と関係会社代表15名が釣果に挑みました。

結果は島田地区が2,440gで優勝、2年連続優勝の金谷地区は2位に止まりました。また、個人の部では渡辺恵之さん(特種東海製紙A)が852gで優勝し、この大会の平均重量は57.5gでした。



↑残流(高熊～福用)で開催した地区大会



(左)から池谷さん、渡辺さん、山下さん

当日の成績は次のとおり。

<地区の部> 優勝:島田(2,440g、40尾) 2位:金谷(2,322g、49尾) 3位:大井川(2,308g、36尾)

<関係会社> 1位:特種東海製紙A(2,628g、46尾) 2位:中部電力(1,116g、19尾) 3位:特種東海製紙B(939g)

<個人の部> 優勝:渡辺恵之(852g、16尾) 2位:山下廣巳(846g、19尾) 3位:池谷勉(799g、13尾)

基礎から学ぶ

第2回釣り教室

6月23日、伊久美川及び加工体験施設やまゆりを会場に、小学生以下を対象とした親子雑魚釣り及び中学生以上の鮎友釣り教室を開催しました。参加者は親子が8組、友釣りが11人。魚の習性や仕掛け作り、竿の操作などの講義の後、川で実技の体験をしました。

友釣り初挑戦の小学生は、おとり鮎の微妙な動きを味わいその操作に苦戦しながら、初夏の鮎を釣り上げました。

ご提供ありがとうございます

今回、釣具を寄贈してくださった方です。釣具は今後も組合活動の中で大事に使用していきたいと思っております。ありがとうございました。

・宮下鋭一様(おとり筒、おとり缶)



(上)マンツーマンでの友釣り指導(下)鮎を釣り上げニコリ



第9回鮎友釣り大会

鈴木伊佐夫氏が優勝

当日は、連日の晴天続きで温水気味でしたが、鈴木伊佐夫さん(家山)が1,042g(9尾)で優勝、大物賞は189gを釣り上げた榊原卯一さん(神座)でした。他の入賞者は2位:天野甲子男(977g)、3位:上田光雄(921g) 4位:杉村康雄(913g) 5位:寺田正史(763g)。

大会の平均重量は1尾当たり109.3gでした。

第5種共同漁業権免許に向けて

漁業法により県知事は県内水漁場管理委員会の意見を聞き、漁場の区域や漁業権魚種等を定め、当該区域での採捕の権利を免許。現在28漁協が受けています。

平成26年1月1日付の免許に向けて昨年4月から新大井川漁協と協議を進めて参りましたが、去る8月21日の大井川漁場管理運営協議会において、漁場の区域、新大井川漁協との行使契約書、申請代表者、増殖計画等を再度確認いたしました。

この間、県漁場管理委員会の公聴会、県水産業局の説明会に出席しています。そこで、免許手続きの重要な一環として両組合ともに臨時総代会を開催し、「内共第17号第5種共同漁業権」免許に係る申請内容について承認、決議をいただく必要があります。

臨時総代会

日時：平成25年9月26日（木）

午後1時開会

会場：島田市プラザおおるり 3F多目的室

- 議案：1. 内共第17号共同漁業権取得
2. 行使契約書承認及び共同漁業権行使規則
3. 共同漁業権遊漁規則

雨待ち望む、節水の大井川

今夏は静岡県上空が高気圧に覆われ、井川の7～8月雨量も172mm（平年の約24.3%）に止まりました。猛暑も加わり、8月9日には自主節水を開始。9月3日には井川ダム貯水率が19%まで落ち込み、本流は瀬切れも心配される状況でしたが、4日の雨により12日現在はダム貯水率が31%まで回復しています。



6月6日 井川ダム湖の貯水率 35%

経営基盤の改善

利水関係団体に協力要請

昨年度7団体に対して文書及び訪問により漁協事業への協力を要請しました。しかし各団体から厳しい経営環境を理由に協力は難しいという回答でありました。

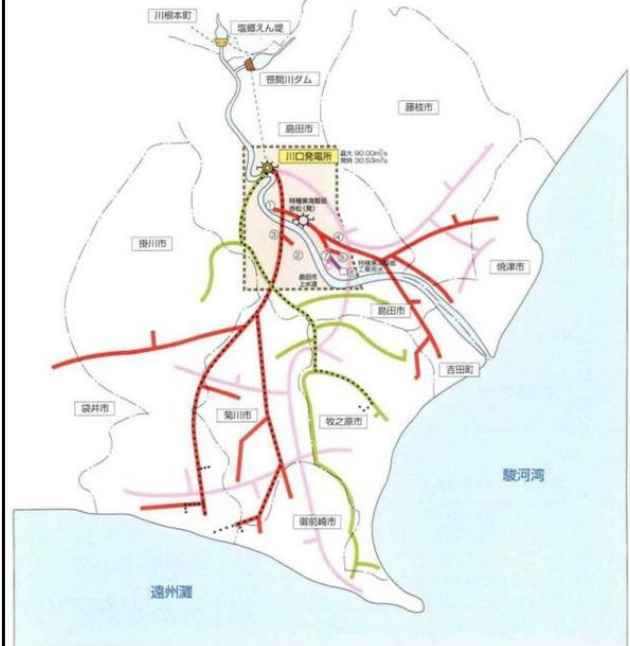
本年度もこうした団体経営の実情を把握した上で、地域住民の共有財産でもある大井川の保全と有効活用を進める漁協組織と事業活動を再評価していただくため、あえて再度の検討をお願いすることに致しました。

8月3日に文書でお願いし、改めて各団体を訪問し、ご理解を得たいと考えています。参考までに大井川水系における発電と下流既得利水との係わりについて図示します。（資料：中部電力）

大井川水系における発電と下流既得利水との係わり

1 下流利水の概要

大井川の水は発電に使われるとともに、農業用水、上水道、工業用水として川口発電所から下流の地域において広く使われています。



	大井川農業用水（8市1町に供給）
	特種東海製紙（株）工業用水
	島田市上水道
	大井川広域水道用水（国土交通省 長島ダムから7市に供給）
	国営牧之原用水（国土交通省 長島ダムから5市に供給）
	東遠工業用水道企業団（H19.4～）

（H23年1月現在）

殖やして 獲る

大井川河口からの稚鮎の遡上も順調に推移し、3月21日伊久美川に100kgを放流。4月14日に河口産稚鮎の採捕を終了しました。採捕数量は530kg。

今年の本支流への放流は(別表)の通り、計画に沿って7月8日までに適時随所に1,850kgの放流を終えました。

放流実績は次のとおりです。

月日	種別(平均重量)	数量	場所
3/21 他	河口産(3~4g)	300kg	伊久美川
4/22	人工ふ化(10g)	300kg	本流3か所
4/25	人工ふ化(10g)	300kg	本流3か所
5/9	滋賀県産(10g)	300kg	伊久美川
5/19	人工ふ化(10g)	250kg	本流3か所
		50kg	大代川
7/3	人工ふ化(20g)	300kg	本流
7/8	滋賀県産(20g)	150kg	伊久美川
計		1,850kg	

あまごは7月17日に6,000尾を放流しました。

釣り人のマナー一掃見!

今年は久々の豊漁。新しい河川監視員さんは、県内外から訪れて川に点々と連なる釣り人の対応に、日々奮闘してくれました。そんな中、監視員が感じた釣りマナーをいくつかピックアップしてみます。

- ・遊漁証(組合員証)を目立つ場所に着用している人。釣りの邪魔をしなくてもいいし、助かります。
- ・釣り人のいる対岸に向かうと、その人は上流を渡って反対側へ。無鑑札の人とイタチごっここの時もありました。
- ・禁止区域なのにゴロ引きの仕掛けが落ちていることが。危ないので規則は守ってほしいです。
- ・何回か釣り場で出会うと「おつかれさん」と声をかけてくれる人も。嬉しいですね。

釣り情報(テレホンサービス)

0547-32-9240 (自動応答)

公式ホームページも大幅にリニューアル!
ぜひご利用ください。



5月~9月業務報告

- 5/30 漁協通信第15号発行
- 31 河川監視研修(解禁前)
- 6/1 大井川あゆ漁解禁
- # 川口地先違法漁業役員監視開始(土・日)
- 11 大井川漁場管理運営協議会・漁業権更新について
- 12 伊久美川テグス撤去作業
- 19 経営管理部会・利水団体への要望について
- 21 伊久美川あゆ漁解禁
- 23 釣り教室開催(友釣り11名、ハヤ釣り11名参加)
- 24 地区対抗友釣り大会の打合せ
- 30 第60回静岡県あゆ友釣り選手権大会(興津川)
- 7/3 鮎放流300kg(本流3か所)
- 8 鮎放流150kg(伊久美川12か所)
- 10 漁業権更新に伴う公聴会(県庁)
- 17 あまご放流6,000尾
- 20 地区・関係会社対抗あゆ友釣り競技大会
- 31 監事会(平成25年度上期会計監査)
- 8/1 監視員会
- 2 利水団体へ要望書を発送
- 9 漁業権更新の説明会(静岡総合庁舎)
- 13 夏季休暇(~8/16)
- 21 大井川漁場管理運営協議会・漁業権更新の確認
- 23 大井川川まつり(新大井川漁協担当)
- 24 一般・組合員鮎友釣り大会(新東名橋上下流)
- 26 大井川水系の節水対策について説明(県水利用課)
- 9/1 投網・たも網漁解禁
- 3 第3回理事会・企画運営部会
- 13 漁協通信第16号発行

第5種共同漁業権とは

河川や湖沼等の内水面でなされる漁業を指します。

- 第1種: 採貝、採藻、伊勢エビ、ナマコなどの定着性動植物
- 第2種: 小規模の定置網漁業
- 第3種: 地引網、地こぎ網及び船引き網漁業
- 第4種: 瀬戸内海、三重県などでの特殊漁法による寄魚漁法、鳥付きこぎ釣り漁法



編集後記

内水面漁業は他の産業と比べ経営基盤が弱く、また高齢化による組合員の加速度的な減少も予想され、近い将来には漁協の再編成や漁業権の返上など深刻な事態の発生を危惧しています。

今号は、経営課題として漁業権と利水関係団体への対応を取り上げました。いずれの課題も10年後の漁協経営を見据え、流域の自治体や地域住民との密なる連携を根底にして、次世代へとつなぐ対応策が重要と考えています。

(小林)